



Ⅲ 吹奏楽のための「ワルツ」／高昌帥



◆Piccolo, Flute

35 小節目からの 8 分音符での連符は *leggiero* なので、*stacc.* の記載はありませんが、フレーズの流れに乗って *stacc.* 気味に軽やかに吹きましょう。2nd Fl. の D と C# の連符のところですが、運指がバタバタするので楽器が安定しない場合は、右手の指は D の運指のまま左手だけ動かしても吹けます。Picc. も *mp* ですが、鳴りにくい音域でのメロディーなので、*mf* くらいのつもりでしっかり鳴らしましょう。2nd の 63 小節目の 3 拍目アクセントは *tenuto* アクセントのように *vibrato* をたっぷりかけて鋭角な響きにならないようにしましょう。Picc. の 63 小節目の C が高過ぎる場合は右薬指をプラスするとピッチを下げられます。最後の A、B^b が低くなる場合は左小指を足すと支えやすくなります。[4] からの 1st の solo はアウフタクトになるスラー頭の 4 分音符を *tenuto* 気味にしっかり吹き、次の 2 分音符に向かっていくように歌って、Cl. solo との掛け合いを楽しみましょう。*mp* とありますが、実際には *mf* 以上の音量でも全然大丈夫ですので、引っ込まないで雰囲気は *mp* となるような歌い方が出来れば良いでしょう。[7] からの Cl. とのアルペジオですが、高い音がきつくならないように始まりの低い音をしっかりと吹き、高音はやや *tenuto* のように丁寧に吹きましょう。173 小節目の *decresc.* はピッチが下がらないように、息をだんだん上に向けて歌口から逃がすように吹きましょう。

◆Oboe

Oboe の出番が来るまでに作られた音楽の流れにしっかり乗っていきましょう。特に 36 ～ 42 小節目は乗り遅れないよう注意してください。46、47 小節目に出てくる F はフォーク F を使うとスムーズです。109 小節目 E^b は左手小指の替え指で。束の間の休符があり、[7] の頭から比較的低音が出てきます。勿論吹き方も大切ですが下の E^b がしっかり出せるリードも予め選んでおきましょう。130、131 小節目は F をフォーク F、E^b を左手小指が良いかと思えます。167 小節目 1 拍目から 2 拍目に移る瞬間は勝負所です。各団体によってタイミングは異なると思いますが必要に応じて [9] から何度かブレスを確保しておいた方が良いでしょう。フェルマータ後、少し静かな雰囲気になりますが萎縮はせずしっかり吹いてください。

◆Bassoon

4 小節目の F は、右手親指の E キーや薬指のキーを足すと柔らかく発音することができます。楽器によって音程が変わるので気になる方は探してみてください。14 小節目からは少しはっきりと、和声感をもって演奏しましょう。[1] からの頭打ちはフレーズ感をもって演奏しましょう。28、42 小節目のアクセントはやり過ぎると遅れてしまうので注意しましょう。112、113 小節目の 8 分音符は *rit.* があるので長さにも気を付けて短くなり過ぎないように。[7] からは *mf* よりも *espress.* を意識しましょう。147 小節目からの *Vivo* はタンギングをはっきりした方が良いでしょう。最後の小節の装飾音符は Cl. とのタイミングをしっかりと合わせましょう。

◆E^b Clarinet

課題曲 I と同様に、どのパートからメロディーを受け継いでいるのか、また次はどのパートへメロディーが繋がっているのか、よくスコアを読んでみましょう。[1] のアウフタクトは前から吹いている Cl. のメロディーの流れに乗っかりましょう。26 小節目に *cresc.* がありますが、到達した音量は *mf* です。バランスに注意しましょう。同じく 26 小節目 2 拍目の D は右小指で音を取ると、次の小節へスムーズに運指が繋がります。[2] は *Picc. Fl.* の流れに美しく合流が出来ると良いですね！美しく乗っかるコツは、ワルツだからと言って『1,2,3！1,2,3！』とカウントし過ぎないことです。1 小節を大きく 1 つ振りで吹くようなイメージで捉えると良いでしょう。40 小節目の C[#]→D は音量が飛び出しやすいので、反応の良いリードと圧倒的なアンブシュアのコントロールが必要です。(実際に私は課題曲Ⅲの収録時だけ、いつもより薄めのリードを選択しています。) 51 小節目 2 拍目の G の運指は、倍音を使用しています。レジスター・キィに左人差し指で C (ラの指) を押さえてわざとリードミスさせると、G が鳴ります。[7] は先ほど書いたように『1,2,3！』と縦ノリでカウントせず、大きく 1 つでカウントしましょう。130 小節目 3 拍目の F は倍音を使用しても良いと思います。B^b の運指 (左手は全部離れた状態) でリードミスを試してみましょう。(ただし音程に注意しましょう!) 148 小節目 2 拍目の F も同様です。

◆B^b Clarinet 1

冒頭から B^bCl. の美しい旋律が始まります。音程を合わせるのはもちろんですが、フレーズを作るにあたって、全員の音色や息のスピード感、方向を揃えるよう心がけると、より美しいアンサンブルになるでしょう。[2] や 105 小節目からの 8 分音符のタンギングは、舌のタッチを力まず、速いスピードの息で吹くと音の粒立ちが良くなります。175 小節目に装飾音符を持っているのは 1st Cl. Alto Cl. Bsn. の 3 パートのみです。装飾音符の出だしをきれいに合わせられると良いでしょう。

◆B^b Clarinet 2

冒頭から 17 小節目間は大変難しいところですが、合わせることだけにとらわれず、しっかりとした音楽性、表現の上で息が揃うよう十分に練習しましょう。楽曲中に 3 回出てくるフェルマータの 1 小節前は 8 分音符が連なります。rit. や *decresc.* を伴うのか、そうでないのか、またホールでは Sax. との時差も感じるでしょう。しっかり打ち合わせをしタイミングをとりましょう。[2] から発音が遅れないように、またモチーフは 1 拍目裏からの取り方になります。2nd は 3 拍目の裏から音がありますが、前から繋がる取り方を意識して演奏しましょう。67 小節目からの rit. は Sax. の 8 分音符とうまく絡むようにしっかり練習しましょう。[7] からの音型は上がった上の音の発音が尖らないように注意しましょう。[8] から 147 小節目の *Vivo* までの *poco a poco accel.* は Timp. や金管セクションをしっかり聞きテンポを運びましょう。167 小節目 2 拍目から発音が遅れないように気を付けましょう。171 小節目からの動きはタンギングが決して重くならないよう、きつくないように気を付けましょう。

◆B[♭] Clarinet 3

譜面の指示を見て、早く、遅くと判断せず、沢山のイメージを持って演奏しましょう。アクセントのついた音は強く吹こうとし過ぎず、豊かで丁寧な発音で。36小節からは音がぼやけやすいので、発音ははっきりめに。167小節からの *Meno mosso* 部分はメロディーにつけるより、4分音符隊がテンポの要となっているかと思うので 2nd、3rd で前向きに進めてください。

◆E[♭] Alto Clarinet

冒頭4小節目の mp での4分音符は非常に難しく緊張しますね。キィを全て塞ぐ D の音なので、思うタイミングに音を出そうとするならばある程度の息のスピードも必要になってきます。リードに舌をつけ、離れたタイミングで思うような音が出るように日頃から練習しておくといいですね。27小節目に G[♭]が出てくるのでアウフタクトの D、E[♭]は運指を工夫しましょう。(右小指から左小指へ) 28小節目は1拍目が G[♭]のため、2拍目の D 音を吹いている間に左小指から右小指へと置き替えが必要となります。[3]からのアルペジオは低い音から高い音へと移動しますが高い音が強くなりすぎないように、どの音に重心を持っていくのかを考えて演奏しましょう。

◆B[♭] Bass Clarinet

rit. や accel. などテンポの動きが多い曲です。自然な流れになるように、スコアを読んで周りの音を良く聴き、アンサンブルしましょう。4小節目の4分音符は、Cl. の4小節目アウフタクトの8分音符を聴くと同時に、Bar.Sax. と呼吸を合わせましょう。Tempo di valse での1拍目のベースラインの音型は、String Bass が pizz. なのか arco なのかを確認して、その音型をイメージしましょう。楽譜では同じ4分音符でも、発音や余韻が違います。[3]は棒吹きにならないように。1拍目に重心を置き、その後は少し抜きましょう。110小節目からのオクターヴ跳躍を軽く発音できなければ、柔らかいリードに替えるなど、セッティングを見直しましょう。

◆E[♭] Alto Saxophone

冒頭や [4] でワルツの後打ちを担当する 2nd パートの 2、3 拍目の 4 分音符ですが、2 拍目よりも 3 拍目を少し軽く (少し弱く) 演奏するのがコツで、そうすることによって次の 1 拍目の重みに繋がります。97 小節の *Lento* は非常に歌いやすい音域なのでたっぷり *espress.* を表現しましょう。スラーの形を意識して注意すると良いでしょう。140 小節～は 8 分音符のアーティキュレーションに注意が必要です。スラーでない音をチャミングに表現しましょう。1つ目の音は前からのフレーズの終わりの音、2つ目の音はフレーズの始まりの音と意識すると表現しやすくなるでしょう。167 小節目の *Meno mosso* はメロディー・ラインの Ob. とのバランスに留意しましょう。

◆B[♭] Tenor Saxophone

この曲は速度表示が細かく設定されていて、すごくテンポが揺れる曲です…! タイミングを

合わせる事が難しかったりします…。指揮に合わせる事も大切ですが、周りとのアンサンブルもしっかりしていきましょう！4小節目のFは鳴りにくい音ですよ…緊張して口が締まるとさらに鳴りにくくなってしまいますので、リラックスして演奏しましょう！30小節目のB^bの音は高くなりやすいので、音のイメージをしっかりして正しい音程で吹けるように練習しましょう。[4]からの4分音符は3拍目が強くないようにしましょう。伴奏がSax.だけになるのでしっかりアンサンブルをして主旋律のFl. Cl.をしっかり聴きながら演奏してください。96小節目からは、A.Sax.1stと一緒に動き出します。息を合わせましょう！99小節目のD^bの音は少し tenuto 気味に演奏し100小節目のA^bの音に向かってほんの少しだけ cresc. して吹いてみてください。また、A^bの音は bis キー (B^bとAの間の小さいキー) を使うと音程が比較的合いやすくなります。(音域によっては異なります。)

◆E^b Baritone Saxophone

冒頭からの18小節目間は速度表示が細かく指定されています。指揮を見てタイミングを合わせる事も大切ですが、まず何小節目単位のどのような旋律なのか確かめ、その音楽の流れに合わせていくようにしてください。[4]は68小節目からのFl. 又は69小節目のCl.soloの動きを注意深く聞きながらタイミングを取ってください。98小節目Gは音程が高くなりやすいのでLowHのキーを補正で足してください。166小節目G^bの音程が低くなる場合はLowC[#]キーを押して音程の補正をしてください。168小節目のFの音程が低く感じる時はLowC[#]キーを少し押して(半分も押さない)音程の補正をしてください。

◆B^b Trumpet

この曲の中にはオクターヴ・ユニゾンが何度か出てきますが、上の音と下の音を同じ音量で吹くと上の音ばかり聞こえてしまいます。バランスには注意しましょう。[3]から3rdはHrn.と同じ音を演奏します。音程を合わせるのは勿論ですが、決して自分だけが前に出ないようにHrn.と一緒に音色を作りましょう。Hrn.の輪郭担当みたいなイメージを持つといいでしょう。101小節目からはテンポが目まぐるしく変わっていきます。同じ8分音符が並んでいますが、テンポが遅い部分は長めに、テンポが速くなると短めに音価をコントロールするとテンポの変化が自然に表現できます。129小節目のDの音は音程が低くなりやすいのですが、替え指(1-12)を使えば思いきってcresc.が出来ます。[8]からのメロディーは音の弾み方(減衰の早さ)をコントロールして徐々にスピード感が増すように演奏しましょう。

◆F Horn

20小節目からの伴奏は、3拍目が大きくなると重たくなるので気を付けましょう。[2]からのアクセントのついている音はCl.の動きとタイミングが合うようにしましょう。[3]からの動きは、なめらかな旋律と対比しているのではっきりと marc. で表現しましょう。105小節目からのゲシュトップはテンポが変化するのですが、他のパートの動きをきちんと把握し、タイミングをパートで合わせましょう。ゲシュトップは全員同じ音なので、同じ音程で吹けるように音の出だしのピッチに気を付けましょう。手の塞ぎ方や息の入れ方など研究しましょう。[7]から

の旋律は 115 小節目の 2 拍目のようにシンコペーションのリズムにメリハリをつけて、平坦なメロディーにならないように工夫してみましょう。142 小節目からのフレーズは、*accel.* がかかってくるのですが、スラーのアーティキュレーションで滑った演奏にならないように気をつけましょう。

◆Trombone

この曲は、ワルツにおける 1 拍目（頭拍）と 2、3 拍目（裏拍）を正確に、正しく演奏することが非常に重要になります。一般に、1 拍目は少し重く長く、2、3 拍目は短く軽快に演奏します。この感覚については、沢山のワルツを聴き、実際の踊りを見ることでイメージを深めましょう。32 小節目からの *accel.* は、全体のリズムに遅れないよう注意しましょう。a tempo からは少し減衰すると自然に聞こえます。全体を通してアーティキュレーションの指示はあまりありませんが、所々に出てくるアクセントはスピード感を意識し、他の音よりもしっかりと息を吹き込みましょう。133 小節目からのメロディーは、それまでの伴奏の吹き方とは違いたっぷり息を吹き込み、Trp. と共にゆったり歌い上げましょう。ブレスを取る時に直前の音を短く切ってしまうと途切れて聞こえてしまいますから、なるべく一息に聞こえるように注意しましょう。[9] からは、それまでのメロディーと一変して伴奏の形に切り替わります。しっかりとその差を意識しましょう。

◆Euphonium

[2] からは音の立ちあがりをはっきりと、38、42 小節目の 2 拍目が遅れないように。44 小節目からの音型はそれまでの 3 拍～2 拍から 2 拍～2 拍になっていますので気を付けてください。[3] からの 8 分音符の音型は途中で音が抜けていますが 2 小節で 1 フレーズのように吹き、一番高い音に上がった時に音を抜かないようにしましょう。56～58 小節間は裏拍から入った感じをしっかりと出し、59 小節で頭からの動きに変わります。[7] からは 2 小節単位ではなく 4 小節単位でフレーズを取り、頂点は 116、119 小節に持っていくしますので 115、119 小節の付点 2 分音符で音が萎まないように。131 小節で高い G^b に上がりますが、130 小節の 8 分音符の動きと別物にならないよう、130 小節目から少し *cresc.* 気味に持っていくようにしましょう。142 小節目からの動きはスラーの後ろの音が短くならないように注意しながら *accel.* しましょう。[9] からのフレーズ、160 小節の G の音が短くならないように、またフレーズの頂点は 163 小節の E^b に持っていくしますので、スラー毎の短い山にならないよう注意しましょう。162 小節 2 拍目から始まるフレーズも同じように 166 小節の E を目指してください。

◆Tuba

18 小節目からの 4 分音符は 3 拍子の軸になる音で、St.B. の *pizz.* のような音の余韻を作りましょう。ここはまだ打楽器が入っていないので積極的に吹き、発音をクリアにして演奏しましょう。46 小節目は 8 分音符ですが、その一瞬にハーモニーを全員で作りますので、アクセントのインパクトだけにならず、C^b の音程をちゃんと作りましょう。63、129 小節目の 8 分音符も同様に打撃音にならないようにしましょう。[3] からの和音ですが、Tuba はほとんど根

音（和音の基礎となる音）ではないので、周りの音をよく聴き、和音を馴染ませましょう。その際、アルペジオを吹いているパート（A.Cl. Sax. Euph.）と一緒に練習すると良いかもしれませんが。（※[7]も同様）147小節目 Vivo からの E^bのオクターヴは上の E^bの音量が突出し過ぎないように、下の E^bを充分響かせます。4分音符の連続部分は上下の動きでアンブシュアが崩れないように気をつけ、音程や響きにも注意しながら丁寧に演奏しましょう。

◆String Bass

この曲は rit. や accel. の緩急のタイミングがバンドによって様々だと思いますが、ワルツのブンチャッチャツの円運動のイメージを持って演奏してください。したがって [3] や [7] も弓を等速で動かさずに、音の変わり目ごとにアクセントにならない程度で少し1拍目の拍感を出しましょう。pizz. は arco の時よりも左手をしっかり押さえた状態ではじくと余韻が残りますので、曲の中でそれぞれの場面でどのくらい余韻を作るのがベストなのかいろいろ試すのも面白いと思います。メロディーの動きに合わせて cresc. や decresc. をつけましょう。133小節目はダウン・アップ・アップが弾きやすいですが、3拍目のアップが短くならないように、弓の配分に注意してください。147小節目からは第3と第4の中間ポジションで押さえ、音楽が停滞しないように低音パートが先行して accel. する気持ちで推進力のある音を出しましょう。

◆Timpani

どのサイズの楽器でどの音程を出すかは、いくつかパターンが考えられます。どんな音色を出したいかで、各サイズの音程設定の組み合わせを考えましょう。この曲のアクセントは、「アクセントのない音符に比べて少しはっきり演奏する」くらいが丁度良いかもしれません。音程とリズムが明確に聴き取れるよう、叩き方やマレットを選びましょう。[8]に出てくる4分音符+4分休符2つで書かれている音型は、必ずしも毎回休符で音を止めなくても良いでしょう。ただし、[3]とのニュアンスの違いには注意してください。音楽的な“ゆらぎ”の多い曲ですので、メロディーのフレージングに寄り添うように心掛けてください。

◆Percussion 1 (Snare Drum, Tambourine, Bass Drum, Glockenspiel)

※演奏の便宜上、Bass Drum は Percussion 3 に移譲しています。

ワルツの Snare Drum は、捉え方で全くイメージが変わってしまいます。まずは、ウィナーワルツのように仕上げるか、硬いイメージにするか、指揮者の先生と相談しましょう。今回のDVD演奏では、ウィナーワルツとして演奏されています。「ウン・タン・タン」と刻む場合、2拍目は1拍目にやや寄せて、3拍目は置くように叩きます。これは Tambourine にも同じ事が言えます。三角形ではなく円をイメージすると良いでしょう。[8]からの accel. は、先導者として積極的にテンポを引っ張り上げる必要があります。142小節目から2小節単位で段階的にテンポアップしていくのがポイントです。148、150小節目の8分音符が曖昧にならないよう注意しましょう。Glockenspiel は、先行する Xylophone からの流れをスムーズに受け取り、木管楽器と一体となって演奏しましょう。

◆Percussion 2 (Triangle, Crash Cymbals, Maracas)

1 拍目に出てくる Triangle は、少し前気味にとることで重くなることを防ぎます。全体を通してワルツの 3 拍子を意識して演奏します。[8] の Crash Cymbals は、輝かしさや豪華さを演出したい場面ですが、強弱が mf となっていますので、全体をよく聞いてバランスをとりましょう。最後の Triangle は、管楽器や Xylophone、Glockenspiel をよく聴いて入りましょう。

◆Percussion 3 (Vibraphone, Bass Drum)

Vibraphone のマレットは、少し硬めのものを使い (今回は Mike Baltar の 22 番を使用)、柔らかいタッチで演奏しました。モーターは中くらいの速度で回しています。手順はいずれも右から交互に演奏しました。Bass Drum は、よりリッチに響く音色を作るために、打面側よりも裏面の方を少しだけ高くチューニングしています。マレットは少し大きめのものがおすすめです。(今回は Playwood の BD-35 を使用)

◆Percussion 4 (Xylophone, Glockenspiel)

Xylophone と Glockenspiel に出てくるアルペジオは、最初の音からきちんと発音するようにしましょう。cresc. にはならないよう注意が必要です。171 小節目の Xylophone は、スラーのニュアンスを大切にしましょう。